



シーズ名

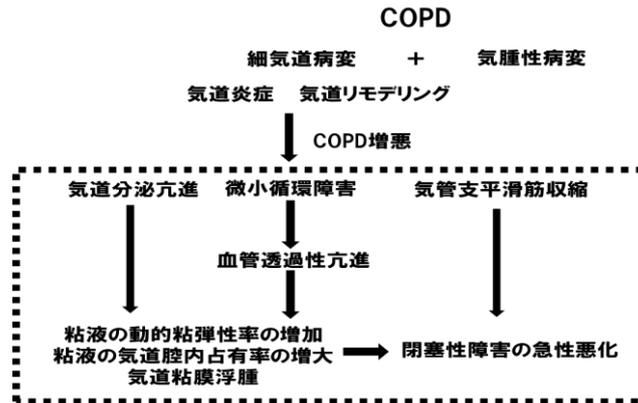
末梢気道の血管透過性から見た COPD の増悪発症機序の解明

氏名・所属・役職

金澤 博・大学院医学研究科・准教授

<概要>

COPD の増悪に関する病態論を世界に先駆けて確立し、ハイリスク群の抽出や早期診断に有効なバイオマーカーを同定する。そして、このバイオマーカーを用いて、COPD の増悪予防に有効な治療戦略を提唱する。さらに、微小血管透過性制御という作用機序から見た COPD の増悪抑制効果を有する新規治療薬の開発につなげる。



<アピールポイント>

細気道レベルに局在する病態生理学的異常を鋭敏に評価することが可能であるマイクロサンプリング法という独自の手法を用いて、COPD 増悪の病態論を明らかにするために企画された本研究は、世界的にも類をみない斬新なものであり、その新規性は極めて高い。当研究では、この手法を用いて、COPD の増悪機序を細気道レベルにおける微小循環障害による血管透過性亢進の観点から解明し、現在の COPD 患者の長期管理における主要課題である COPD 増悪の予防と管理のための論理的基盤を提供するものである。今日、気流閉塞の程度が軽度である軽症 COPD 患者の中にも頻回の増悪を経験する患者群が存在すること、及び、同じ臨床病期でも増悪回数にばらつきが存在することが注目されており、このような臨床上の難解な課題の解決にもつながるものである。今回の研究成果から、増悪を起こしやすい患者を鋭敏なバイオマーカーを用いて簡便に鑑別し、頻回の増悪や入院に至る前に介入を行うことで、COPD の予後が大きく改善されることが期待される。さらに、COPD 増悪に対する画期的で斬新な治療法の開発や創薬の可能性を現実化するという目標に向けての新たな展開も予想される。以上のように、本研究は、我々が、その企画・実現性において優位性を有し、かつ、その成果の臨床面への波及効果は極めて大きいものと予想される。

<利用・用途・応用分野>

新規薬物の開発・創薬

<関連する知的財産権>

なし

<関連するURL>

なし

<他分野に求めるニーズ>

なし

キーワード

慢性閉塞性肺疾患、急性増悪、創薬